

今月のことば

善いと思われ
ることを
している時ほど
人間は
あぶない

(山崎龍明『歎異抄を生きる』より)

龍谷大学非常勤講師

こいけひであき
小池秀章

山崎氏が大学生の時、新潟大地震が起きました。早速、募金活動を始めました。その時のことが、次のように述べられています。

「募金をしてくれる人。全く無関心な人。さまざまです。最初はニコニコして街頭で呼びかけていましたが、時間がたつにつれ、無関心な人が腹立たしくなってきました。つまり、私たちが授業を犠牲にして、こんなに努力しているのに、なぜ無関心なのか。なぜ十円のお金もいれてくれないのか、という腹立たしさでした」(山崎龍明『歎異抄を生きる』二四三頁)そして、当時のことを振り返り、

「考えてみるとこれも、ずいぶんと傲慢なことだと思います。(中略)今、考えてみると、善いこと、あるいは、善いと思われることをしている時ほど、人間はあぶないものかもしれない」(同二四四頁)と述べておられます。

私たちは、自らが「善いことをしている」ということにとらわれた時、無意識の内に、他を悪と決めつけ、批判や攻撃をしてしまいます。「善いことをしている」と思った時、「今は、尊いご縁によって、善いことをさせていただいているけれど、縁によっては、何をしてしまうか分からないのが私だ」ということを、忘れないでいたいと思います。

合掌